



2007(平成19)年度入学式式辞

弘前学院大学に お迎えする皆さんへ

学長 吉岡 利忠



後援会、交友会、卒業生、大学在学学生として教職員皆さんにおかれましては年度初めでお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。皆さま方のお仕事、滞りないことを祈念し、また弘前学院の理事、評議員、監事の皆さまの重責には日頃感謝申し上げております。

日でしたが、本学体育館において厳かにかつ和やかな入学式が挙行されました。第27号の「弘学時報」の紙面を借りまして、式辞の一部をご紹介いたします。

教育が120年以上の歴史を刻み、同時に伝統を積み重ねていく唯一の教育機関であります。昨年には、大々的しかも厳かに創立120記念式典が挙行され、各報道機関、弘学時報などをおとしてご存知のことと思っております。

皆さまには既にお気づきだと思いますが、弘前学院大学の1号館、5号館、6号館の入り口ロビーには、「畏神愛人」の額が飾られております。阿保邦弘理事長学長の筆によるものです。「畏神愛人」、すなわち「神を畏れ、人を愛する」を建学の精神として、多くの入学生を迎え、卒業生も送り出しております。この建学の精神の基に、毎週木曜日の午前の一時間ばかりですが、約100年前に作られたスタンディンググラスが輝き、パイプオルガンの響く礼拝堂で礼拝があります。新入生の皆さんには、是非、礼拝に参加してください。教職員も出席しております。

弘前学院大学は数年前より3学部、4学科、2大学院研究科を擁する総合大学としての体制が整いました。今日の入学式は、看護学部および大学院文学研究科は第3回、文学部は第37回、社会学部は第9回、社会学部研究科は第5回ということになります。



2007年入学式

皆さまには既に気づきかと思いますが、弘前学院大学の1号館、5号館、6号館の入り口ロビーには、「畏神愛人」の額が飾られております。阿保邦弘理事長学長の筆によるものです。「畏神愛人」、すなわち「神を畏れ、人を愛する」を建学の精神として、多くの入学生を迎え、卒業生も送り出しております。この建学の精神の基に、毎週木曜日の午前の一時間ばかりですが、約100年前に作られたスタンディンググラスが輝き、パイプオルガンの響く礼拝堂で礼拝があります。新入生の皆さんには、是非、礼拝に参加してください。教職員も出席しております。

私たちが、皆さんが、将来社会活動に即応できるような環境設定の構築に努力しております。皆さんの健康管理、こころの悩み、さまざまな心配事に対しても、適切に対処する体制も充実してきています。安心して、毎日をお過ごし下さい。因みに、学長室は常にドアをオープンにしてあります。気軽に出入り頂き何でもご相談下さい。また、当然ながら、キャンパス内は全面禁煙です。青森県から「空気クリン施設」のマークも頂きました。今や、公共的な場所では禁煙は当然のことです。将来、就職の際の一つの条件にもなります。このようなクリリーな環境の中で心に残るキャンパスライフを経験し、部活や毎日の運動による体力づくりも精を出し、そして何でも話し合える素晴らしい友人も得て欲しいものです。

以上が少し修正加筆した式辞です。4月2日(月)には全教職員集会所で、学長の本年度の所信表明ともいうべきものです。特に、学長からは学生を主体とした大学教育の充実、積極的な外部資金獲得などについて述べ、本年度も続けて大学の自己点検自己評価に対して真摯な姿勢で臨むように、かつ、質の高い高等教育機関として継続発展すること、私ども私立大学の使命であることを訴えました。その結果、希望に燃える入学生を受け入れ、教育に満足する在学生、そして限りない能力を秘めた卒業生を送り出すことができるようになりましょう。

また、弘前学院大学では積極的に国際交流を進めており、二年前の四月に米国ウイスクンシン州のウイスクンシン大学と姉妹校を締結し、両校学生の交流が続いています。それぞれの大学で単位取得が出来るようになっております。ヴァージニア州シユナンドニア大学、イリノイ州ノースセントラル大学へは、弘前学院大学学生による海外研修、短期留学が継続しております。このような国際交流については、時々、テレビ、新聞などで報道されたい。国際感覚を身につけるための行事であり、皆さんも積極的に参加して欲しいと思います。

私たちが、皆さんが、将来社会活動に即応できるような環境設定の構築に努力しております。皆さんの健康管理、こころの悩み、さまざまな心配事に対しても、適切に対処する体制も充実してきています。安心して、毎日をお過ごし下さい。因みに、学長室は常にドアをオープンにしてあります。気軽に出入り頂き何でもご相談下さい。また、当然ながら、キャンパス内は全面禁煙です。青森県から「空気クリン施設」のマークも頂きました。今や、公共的な場所では禁煙は当然のことです。将来、就職の際の一つの条件にもなります。このようなクリリーな環境の中で心に残るキャンパスライフを経験し、部活や毎日の運動による体力づくりも精を出し、そして何でも話し合える素晴らしい友人も得て欲しいものです。

以上が少し修正加筆した式辞です。4月2日(月)には全教職員集会所で、学長の本年度の所信表明ともいうべきものです。特に、学長からは学生を主体とした大学教育の充実、積極的な外部資金獲得などについて述べ、本年度も続けて大学の自己点検自己評価に対して真摯な姿勢で臨むように、かつ、質の高い高等教育機関として継続発展すること、私ども私立大学の使命であることを訴えました。その結果、希望に燃える入学生を受け入れ、教育に満足する在学生、そして限りない能力を秘めた卒業生を送り出すことができるようになりましょう。

三者機関により点検・評価されること法律で義務化されました。今年3月に、弘前学院大学は、財団法人大学基準協会への加盟判定審査の結果、大学基準に適合しているという認証評価を受けました。大学の教育、研究、財政など全てに対する評価です。このことは、とりもなおさず文部科学省から大学基準認証を頂いたことを意味するものであります。全国でこのような評価を受けた大学はまだ少数にすぎないようです。もちろん今後とも大学の自己点検・評価は続きます。新入生の皆さま、保護者の皆さま、関係者の皆さま、どうぞ、弘前学院大学は公的に認証された大学であり、そこで学びつつ学生生活を送ることに誇りを持ち進んで行って欲しいと思います。

本多庸一とキリスト教 (4)

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



本多庸一の「私の回心」(英文演説から)本文の続きを紹介する。

「そのときキリストは私の唯一の逃げ場所でありました。(中略)そこに力がわき、勇気と平安がありました。すべての恐怖と心のわずらいは消え去りました。」

一、家系
本多庸一は、一八四八年(嘉永元)十二月十三日、津軽藩弘前城下の在府町に出生した。今日の在府町、独立行政法人弘前

大学医学部の正門前に位置する。幼名徳蔵。父は本多八郎左衛門久元。三百石の藩士であった。本多家の家系は三河武士津深兵衛親久にさかのぼる。親久は三河の本多家の出で、これは徳川家中に有名な本多家との関係に思われる。(本多家の家紋は丸に立ち葵)彼は家康の臣として江戸に移り、その養女満天姫の津軽家への嫁入りの際にこれを奉じて弘前に至る大任を果たすとともに、とどまらず津軽藩士となった。その後、この家系は三河武士の血統から純然たる津軽武士となり、深津を改め、旧姓本多に復している。

二、幼年時代
徳蔵は幼くして聡明であった。満五歳の春、父から孝経を学び始め七歳の頃藩校稽古館の教師について漢籍の素読を学び、稽古館に入学した。満十歳のときまでに大学・中庸・論語・孟子・礼記等(儒学の要書)の素読コースをマスターしたといふ。

徳蔵が稽古館に入った一八五九年(安政六)、母とも子は病没し、父は翌年、同藩士豊島九郎の娘の息子と再婚した。満十一歳にして継母を迎えた長男徳蔵は、この継母にも良くつかえ、その後、こと、りつ、まさ、末四郎の異母弟妹をも加える一家の中心として、まとめた祖父東作が世を去った。折か

ら、父久元は藩主に従い京都に勤務中であった。看病から祖父亡き後の家中の大黒柱としての一切が徳蔵の肩にかかったのであった。徳蔵は、剛毅不屈の傑物として藩に重きをなしたこの祖父から、その資質において最も多くを受け継ぎ、祖父もまた己に似たこの初孫を愛し、その優れた才能を認識して前途を嘱望していた。「古武士のような風貌を通して、学生に質実剛健と博愛を鼓吹した青山学院院長本多庸一の姿、一人もし事変に逢はば卒然かゝるはずみなきまに之に赴かず、まず安座して一考するの余裕なかるべからず」という祖父の遺訓を終生のモットーとしていた彼の人格形成には、その祖父の影響感が決定的であったと考えられる。(以下次号)

生い立ち
本多庸一は、一八四八年(嘉永元)十二月十三日、津軽藩弘前城下の在府町に出生した。今日の在府町、独立行政法人弘前

い、十一代順承のもとに御用人として幕末の困難な変動期を、藩政の中心人物として活躍した。悠々迫らぬ大身武士の風格と、新時代に即応して藩政を改革する進歩的見識とをかねそなえ藩学稽古館に蘭学所を設けたり、西洋兵術の輸入につとめ洋砲採用を断行したりした。

この東作の娘とも子に別家本多家から迎えた養子が八郎左衛門久元であり、その間に三男四女が生まれた。この長男が徳蔵のちの本多庸一である。徳蔵には三人の姉、さだ、ため、なつ、があり、次弟斎(いつき)、妹が、末弟武雄があった。斎は、のちに日本メソジスト教会の牧師となった。末弟武雄は津軽藩の重鎮西館孤清の養子となり、東興義塾塾長、大館中学校校長、

情を深く尊敬し、父も家庭のこととはたいがい徳蔵に任せていたといふ。

稽古館における徳蔵は優秀な学生であった。十二歳の秋には早くも特選で会読席(上級)に進んだ。十三歳からは稽古館での学問とともに小野派一刀流の剣術を学び、さらに翌年からは馬術・砲術の修業にも励んだ。このような徳蔵の修業経験は、当時の藩中におけるエリートコースの過程であつて、このことは、そのように生まれそのように形成された彼の一生を通じての行動・思考様式の決定と深く関係していることとして記憶にとどめたい。



桜と宣教師館

キリスト教教育について

宗教主任 中澤實郎



宗教教育の事始めは、文字の習得であった。例えば、仏教の原典は、サンスクリット語である。この文字を学ばねばお経は読めない。しかし、仏教は中国を経由して渡来したので経文

大学院は多士済々

社会福祉研究科長 齋藤 繁



社会福祉学研究科においては、これまで総勢19名の方々が修士号を授与されました。現在、研究科に在籍している院生の皆さんは、これまた多士済々で、ご高齢の内科医である女医さん、短期大学講師、

文学部のアドミッションポリシー

文学研究科長 文学部長 畠山 篤



今年度の文学部入学生は92名、文学研究科の入学生は1名でした。文学研究科を除き、例年になく学生増で、少子化と文学部冬の時代にあつて、まことに喜びに堪えません。

この成果は、教職員が通常業務に努めてきた賜物です。その通常業務とは、教員による、①丁寧な授業の励行、②学生指導の徹底化、③専門の研究の励行、④専門を生かした社会活動の励

習得せねば、専門家は原典を読むことはできない。ローマ帝国時代になると、ラテン語に翻訳された。宗教改革後、聖書は民族の母国語に訳された。しかし、問題は、内容が変容するのである。例えば、「神」という用語である。ヘブライ語は「ヤハウェ」で、「天地の創造者」、唯一神である。ギリシア語は「ゼウス」、「ラテン語は「デウス」、英語は「ゴッド」であつて、唯一神ではない。我々日本人は、「神」という言葉から如何なる形態の神を連想するのだろうか。「八百万の神」(ヤオヨロズ)という表現がある。

幼稚園の園長先生と、学部からの一般学生が3名という構成になっていきます。出身地は、宮城県2名、岩手県2名、京都府1名、青森県1名です。うち社会人学生は3名ですが、お勤めを続けながら2年間の学業を達成することは並大抵ではなく、至難の業と言えるでしょう。大学としては、仙台、京都などからの遠隔通学という事情とも取り組まなければならず、授業計画づくりに苦慮してまいりました。結局、適部は求めています。

「英語・英米文学科は英語と人間を理する学問です。人間を理する学問は、英語・英米文学科のアドミッションポリシーは、次のようになります。」

「英語・英米文学科は英語と人間を理する学問です。人間を理する学問は、英語・英米文学科のアドミッションポリシーは、次のようになります。」

開学部10年目を迎える

社会福祉学部 社会福祉学部長兼学長 吉岡 利忠



「保健医療福祉」は一つの重要な専門用語であり、多くの人たちが目にする耳にするありふれた単語になりつつある。決して、その意味するところが「保健・医療・福祉」というように、分けて考えるべきではない。対象は我われ一人ひとりである。さまざまに悩める人たちがそれぞれの個性を対象とするべき実践的学問であるとも言える。個々を対象にするのではなく、社会福祉学部の存在を、世間の人々に知って戴けるようご協力ください。要点はこうです。

弘前学院大学の社会福祉学部立ち上げは、阿保邦弘理事長学院長の並々ならぬご尽力の賜物である。もちろん藤田月衛弘前学院事務局長、木村修彦大学事務局長ら事務方による設立時の仕事振りを機会あるごとに聞いています。今回、その学部長として

「日本語・日本文学」は、次のようにあります。

「日本語・日本文学」は、次のようにあります。

三年目を迎えた看護学部

看護学部長 神郡 博



新設の看護学部も今年で3年目を迎え、いよいよこれから、臨床実習が始まる時期にきています。

臨床実習は、看護教育の重要な位置を占め、どの大学でも全教育期間の四分の一に相当する時間を割いています。

この時期の課題は、如何によい体験をして、看護に必要な能力を身につけていくかに置かれています。換言すれば、これまでに学習してきたことを、個々の看護場面や患者に当てはめ、適切なケアをする能力を如何に身につけるかという点です。

2004年以降、すべての大学、短大、高等専門学校は、国の認証評価機関による評価を受けることが法律によって義務付けられました。

本学では、これまでの自己点検・評価を土台に、2006年4月、大学基準協会に認証評価を申請しました。

大学基準に適合

大学基準協会に



吉岡利忠学長 中富健康科学振興 財団から表彰される

吉岡学長は、2007(平成19)年3月20日、ホテルオークラ東京において、平成18年度(第19回)中富健康科学振興賞を受けられた。この財団は久光製薬株式会社前会長中富正義の私財を基に創業140周年を記念して設立されたものである。健康の維持・増進について医学・薬学および運動を主体とする健康増進に関する科学の研究に助成しており、吉岡学長は、長年に亘る運動を主体とする健康増進に関する科学の研究およびこの分野の発展に顕著な功績があった研究者に対する顕彰として表彰された。その業績に対し贈呈された褒賞金の一部は弘前学院創立120年記事業協賛に寄付された。これまでに、吉岡学長は秩父宮記念スポーツ医・科学賞および奨励賞、神奈川県体育功労者賞、国際健康コミュニケーション科学学会功労賞、上原記念生命科学財団、明治生命厚生事業団などから表彰を受けている。



新任客員教授紹介 (平成19年4月1日付)



後藤 勝正



中村 幸弘



梶木 剛



大学看護学部 助手
菅原 大輔



大学看護学部 助手
長内志津子



大学社会福祉学部 講師
小川 幸裕



大学文学部 大学院文学研究科
教授 野沢 勝夫

新任紹介 (平成19年4月1日付)



学務主任 准教授
吉永 直子



日本語・日本文学科長
教授 井上 諭一



英語・英米文学科長
教授 佐藤 和博

文学部

平成十九年度 各学科長・ 各学科主任紹介



看護学科長 教授
木村 紀美

看護学部



学生主任 准教授
西東 克介



社会福祉学科長 学務主任
准教授 八戸 宏

社会福祉学部



学生主任 准教授
坂井 任

人事発令



学生主任 教授
三上 聖治



学務主任 教授
片桐 康雄

○退職

(平成18年11月5日付)

大学看護学部 助手 泉 朱子

(平成19年3月31日付)

大学文学部 大学院文学研究科 教授 中村 幸弘

教授 梶木 剛

大学社会福祉学部 大学院社会福祉学研究科 教授 前田 敏雄

教授 葛西智賀子

大学看護学部 講師 東中須恵子

卒業記念パーティーを終えて

社会福祉学部・社会福祉学科 成田 知哉

私は、卒業関係委員会のメンバーとして卒業アルバムの作成、卒業パーティーの企画を行いました。大学の4年間で4年の卒業関係委員会に所属して活動していた時が充実していたと思います。委員会が活動していたこの1年間は懐かしく楽しい思い出です。

4年生の春、最初の打ち合わせでの時まず何をすればいいのか解らず、前年度の資料を見たり学生課の方に聞いたりして試行錯誤しながら進めました。なかなかうまく進ま

ず苦労の連続でした。

主な仕事は卒業アルバムの作成と卒業パーティーの企画・進行。前期は卒業アルバムに載せる写真を集めました。個人写真は前期中に撮り終える必要があり、6月頃は

卒業生からのメッセージ

プリンシプルの確立

2007年3月卒 文学部 英語・英米文学科 高橋 直樹



月日が経つのは本当に早いもので、弘前学院大学の門をくぐってから4年の歳月が流れました。今、こうしてこの4年間を振り返ってみますと、実に様々な思い出が脳裏に去

来いたします。

私は、大学生になって初めて一人暮らしというものを経験しました。弘前には身寄りもなく、当時はまだ友人もごく僅かでした。そこで大変だったのは、何でも自分で判断しなければならなかったことです。何かトラブルが発生

に最後まで内容を検討・調整しましたが、パーティーが終

わるとの中心となる余興は学生の中から募集しましたが、パーティーのみだつたのが残念でした。余興をする人が少ないが、パーティーが盛り上がりれば一人か二人は飛び入り参加して



参加してくるだろうとカラオケなどを用意してパーティーに臨みました。パーティー当日はたくさんの方がカラオケに飛び入り参加し、予想以上に盛り上がりを見せた。

残念なことはパーティーの時間が2時間と短く、途中で切り上げた点です。もう少し時間があればもっと盛り上がりがあったと思います。パーティー全体では予想以上に盛り上がりがあったために学校生活最後のイベントとしてとても良かったと思います。

す。時には批判を浴びることもあれば、戦わなければなら

ないこともあります。でも、一本の筋が強く通っていれば、そう簡単に揺るぎません。周りの人間が何を言おうと最終的に決断するのも、そして、その責任を負うのも、自分自身なのです。

大学とは、プリンシプルを確立する場だと私は思っています。

大学生生活で得たもの

2007年3月卒 社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤 弥生



私の大学生活を一言で表すと、まさに「出会い」だったと思います。大学で出会った友人は私の弘前での生活に喜びや楽しさを与えてくれました。

ボランテア活動ではスペシャルオリンピックス(SO)に参加し、アスリートやフア

ミリーに出会いました。また、SOという活動そのものも貴重な出会いとなりました。

SOを通して、自分に何が

できるのか、何をすべきなのかを考えて行動するようになり、私自身もボランティアに対する考え方やボランティアをする意識に大きな変化を与えたのもSOでした。

スポーツを通して触れ合っている時間、仲間を共に乗り越え活動できるようなと考えた時間は大きな財産となりました。ひとつの活動にこれ程熱くなることは、その一員として参加できたことを嬉しく思います。

4年生のゼミでは信頼できる先生とかけがえのない7人の仲間に出会いました。同じ文章を読み、それぞれの考えや意見を交換し合ったことは

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。だれでも、求める者は受け探す者は見つけ、門をたたきなさい。」(聖書マタイによる福音書7章7〜8節)

十数年前に大学を卒業し、普通ならば、仕事に家庭に子育てにと忙しい日々を送っているであろう年齢に達しているが、それには縁遠い生活を送っている中で巡り合ったのが、大学院への入学であった。

始めのうちは、学生としての

扉は開かれる

2007年3月卒 大学院文学研究科 N・S

たが、沢山のことを吸収することができ、充実した日々であった。

社会人として働きながら再び戻るには、生活の糧である仕事をどうするかが一番の問題となる。しかし、ここでは、仕事環境を変えることがよくあぶことができた。社会人の受け入れを考慮し、勤務時間に合わせた時間割で開設していただいた。このような環境を整えてくださった諸先生方や大学の職員の方、学生の方の理解と協力には、本当に感謝している。

冒頭の言葉は、入学式で聞いたものだ。学びたい気持ちがあれば、この学校はいつでも門を開いている。卒業して間もない人も、暫くたった人も、現状に何かプラスを求めたいのであれば、是非、この門をたたいてほしい。自分を求める何かが見つかる筈であ

2006年度の卒業生による「卒業記念パーティー」が3月17日(土)に開催され、20万円の剰余金がありました。卒業関係委員会メンバーで検討した結果、大学へ寄付することに決定され、吉岡学長に手渡されました。

学長から、卒業生の皆様に対し、「思いがけない沢山の寄付をいただき、感謝を申し上げます」とも、後輩の学生のために有効に活用したい」と、お礼を述べられました。

この寄付金は120周年記念事業へ寄付することになりました。

あおもり県民政策研究を獲得!

この度、平成19年度あおもり県民政策研究(学生枠)未来をつくる波をおこせ!アイデア募集に、本学の船木ゼミ生を中心とする発達障害早期療育研究ネットワークのグループ(代表社会福祉学部4年吉田聡恵他)が、「青森県の三市における早期療育の現状把握と、子ども・家庭支援システムの構築に向けた調査研究」が公募したところ、審査会において研究助成金の決定をいただきました。5月28日(月)、交付決定通知伝達式が青森国際ホテルにて行われ、



本学生の研究成果が、青森県の地域づくりに活かされます。

交通事故に遭った婦人から感謝の電話!

4月19日の昼頃、西弘前駅の組合マーケット付近で交通事故に遭い苦しんでいる婦人を励まし、救急車の手配をし、救急車が来るまでずっと傍で元氣付けてくれて、適切な対応をしてくれた本学生をさがしてほしい、そして感謝とお礼を述べたいという電話があった。そこで掲示等で呼びかけたところ、看護学部の十川祐哉・岩沼 将・本間愛音・工藤春菜さんの4名とわかりました。

